



平成29年度

第1号

高岡市立中田小学校

学校だより

あしつき

平成29年5月15日発行
発行責任者 森田英宏「がく じ ふ えん
學而不厭」

校長 森田 英宏

正面玄関を入ると、世界的な物理学者である湯川秀樹博士の墨書が掲げられています。穏やかでまとまりのある、それでいて凜とした品格を感じる筆遣いが心に響きます。学而不厭(学んで厭わず)は、論語の一節で、「どこまで学んでも満足することを知らず、厭きることなく学び続ける。」という意味に解釈できます。

小学校に、日本人初のノーベル賞受賞者である湯川博士の扁額があることは極めて希なことです。なぜここに湯川博士の扁額があるのか、その経緯を教えていただいた時、この書に込められた湯川博士の深いお心と、関わった多くの方々の熱い思いを感じました。



中田小学校の「宝」といわれる由縁がそこにあるのでしょう。

ちなみに、本校のPTAは、毎年卒業生に記念としてこの書を写した青銅製のペン皿を贈っています。このことにも深い意味があるのだということを改めて理解できました。

昭和31年12月(今から60年前)、国語の授業で湯川博士の偉業を学び感銘を受けた6年生が、「自分たちの卒業記念として、湯川博士に何か一筆書いてもらい、われわれの校訓にしたい」と話し合い、お願いの手紙を出しました。直ぐには何の返事もありませんでした。子供の願いを知った保護者の方々も協力することになり、当時のPTA会長さんが代表して博士のもとへ足を運ばれましたが、直接会うことはできませんでした。

残念ながら卒業までに願いは叶わず、6年生はこの計画を継続するという約束をして卒業していきました。中学生となってからも初志の貫徹を申し合わせ、博士に病氣見舞いを贈りました。PTA会長さんは再度お願いに博士を訪ねられました。

そして、昭和33年1月、3年越しの念願の博士の書(横額)が、学校に送られてきました。

＜書と共に届いた湯川博士の葉書文面＞

前略 かねてよりお頼みの書が出来ましたので早速お送り申し上げます
何分多忙なため期日がおくれました事お詫び申し上げます
ご卒業の生徒さんが私の書によって希望をもって今後進まれるようになりますれば
幸いと思ひます 先ずはお知らせまで 敬具

「学而不厭」に込められた願いを、機会を捉えて子供たちにも伝え、しっかりと受け継ぎ、本校の「学ぶ姿勢」として大切にしていきたいと思ひます。